

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

メッセージ 10

神の長子のかたちと同形化される

聖書：ローマ1:3-4. 8:2, 14, 19, 26-29. ヘブル2:10, 12後半

I. キリストの復活は、神の長子としての彼の誕生でした——ローマ1:3-4. 8:29:

A. キリストは復活の中で神から生まれ、多くの兄弟たちの間で神の長子となりました——29節:

1. キリストは永遠から神のひとり子でした——ヨハネ1:18. 3:16。
2. 神のひとり子は肉体と成ることを通して人性を着て、神・人となりました。
3. 彼は肉体と成った後、復活を通して、人性において神から生まれて神の長子となりました——ヘブル1:6. ローマ8:29. 参照、詩2:7. 使徒13:33。

B. 「ひとり子」という語が示しているのは、神の長子に加えて、他の子たちがいるということです:

1. キリストは彼の復活を通して生まれて神の長子となり、同時に彼のすべての信者は生まれてキリストの兄弟たち、神の多くの子たちとなりました——ヨハネ20:17. I ペテロ1:3。
2. ヘブル第2章10節は多くの子たちについて、ローマ第8章29節は多くの兄弟たちについて語っています。
3. キリストにある信者として、わたしたちはみな神の子たち、神の長子の兄弟たちです。
4. 長子は神性と人性の両方を持っており、わたしたち彼の信者もまた、人の性質と神聖な性質の両方を所有しています——II ペテロ1:4。

II. 永遠の過去に、神はわたしたちが御子のかたちと同形化されるようにあらかじめ定めました。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです——ローマ8:29:

A. 世の基が置かれる前から、神はわたしたちを御子のかたちと同形化しようとしてあらかじめ定めました。これは、同形化がわたしたちの運命であることを意味します——29節. エペソ1:5。

B. 造り変えは形における変化を含みますが、同形化はこの形からあるかたちへの、すなわち神の長子であるキリストのかたちへの形成を

含みます— II コリント 3:18. ローマ 8:29。

- C. 神の長子のかたちに同形化されることは、キリストの命の中で自己の様から救われること、すなわち、自己の表現、外観から救われることです— 5:10後半. マタイ 16:23-24。
- D. 自己の様から救われて、神の長子であるキリストのかたちに完全に同形化された時、わたしたちは実際において、あらゆる面で神の子たちとなり、神の子たちの外観を帯びます— ヘブル 2:10。
- E. 命の霊の法則の機能は、わたしたちを形成すること、すなわち、神の長子であるキリストのかたちに同形化することです— ローマ 8:2, 29:
 - 1. 命の霊の法則による形成は、ローマ第8章29節の「同形化」を意味します。
 - 2. 命の霊の法則は命の形を規制します。この命の霊の法則の形成する機能は、命の成長を必要とします。なぜなら、命の霊の法則は、命が成長してはじめて機能するからです— I コリント 3:6-7. エペソ 4:15. コロサイ 2:19。
 - 3. 神聖な命がわたしたちの内側で成長して、わたしたちを造り変えるとき、命の霊の法則は自然に機能して、わたしたちを神の長子キリストのかたちに同形化します— ローマ 8:2, 29 :
 - a. 命の霊の法則は、わたしたちを神の長子の複製とします。
 - b. 長子は原型であり、神の多くの子たちを大量に複製するためです。彼らは彼の多くの兄弟たちです— 14, 19, 29節。
 - c. 内住する原型、すなわち、神の長子は、命の法則としてわたしたちの中で自動的に働いて、わたしたちを彼のかたちに同形化します— 2, 29節。
 - d. 最終的に、命の霊の法則の形成する機能を通して、わたしたちはみな円熟した神の子たちとなり、神は彼の永遠の団体的な表現を得ます— 啓 21:7, 10-11。

III. その霊はわたしたちのためにとりなし、すべてがわたしたちのために共に働いて、わたしたちは長子のかたちに同形化されます— ローマ 8:26-29 :

- A. その霊のとりなしは、おもに神のみこころにしたがってではなく、神ご自身にしたがってです— 26-27節 :
 - 1. その霊がわたしたちのためにとりなすのは、わたしたちがキリストのかたちに完全に同形化されるためです— 27, 29節。
 - 2. キリストは型です。その霊は、わたしたちに起こるすべてのことで、

わたしたちをこの型の中に、神の長子のかたちの中に入れるようにと祈っています——29節。

- B. その霊のとりなしの結果、「すべて」は共に働いて益となります。それは、神の目的を成就するためです——26, 28節：
1. わたしたちの外側ですべてが共に働くことは、常にわたしたちの内側でその霊がうめくことに続きます——27-28節。
 2. 父なる神には主権があり、すべてのことを案配し、何がわたしたちのために最上であるかを知っています。父なる神はその霊のとりなしに答えます。それは、すべてを共に働かせて益とすることによってです。それは、わたしたちが神の長子のかたちに同形化されて、三一の神の団体的な表現となるためです——28-29節。
 3. わたしたちが苦難を経過するのは、神に目的があるからであり、またわたしたちの苦難がこの目的を完成するために共に働く「すべて」であるからであるということを認識する必要があります——18節。
 4. 文脈によれば、28節で述べられた益は、29節のわたしたちが神の長子としてのキリストのかたちへと同形化されることを指しています。
 5. わたしたちは自分自身の手の中にあるのではなく、主の御手の中にあり、彼はわたしたちを、彼の同形化の目的を成就するための過程に置きます。自分が神の目的の中にいることを認識した人たちは、真の平安を持ちます——ヨハネ10:28-29. ローマ8:28-29. 15:33. 16:20。
- C. 神はわたしたちを、御子のかたちに同形化するという目的をもって召しました。神の目的の中で彼に協力する道は、彼を愛することです——8:28-29：
1. 神を愛することは彼に協力することであり、彼に協力することはわたしたちの中で、またわたしたちと共に、彼の目的を成し遂げるための機会を彼に与えることです——マルコ12:30。
 2. もしわたしたちが神を愛するなら、あらゆることはわたしたちの益、すなわちわたしたちの同形化のために共に働きます——ローマ8:29。
 3. すべてがわたしたちにとって益であるか損失であるかは、神に対するわたしたちの愛にかかっています。秘訣は彼を愛することです——28節. I コリント2:9。
- IV. 「召会のただ中で、わたしは賛美の歌をあなたに歌います」——ヘブ

ル2:12後半：

- A. これは、召会の集会の中の御父の子たちの内側で、長子が御父を賛美することです。
- B. わたしたち神の子たちが、召会として集会し、御父を賛美するなら、長子はわたしたちが賛美する中で御父を賛美します——12節：
 - 1. キリストはわたしたちから離れて単独で御父を賛美するのではありません。むしろ、彼はわたしたちの内側で、わたしたちと共に、わたしたちの賛美を通して賛美します——13:15。
 - 2. わたしたちが歌う中で、キリスト、神の長子は、御父への賛美の歌を歌います——2:12後半。